

安楽寺だより

第15号

紙面内容

- 2面 親鸞聖人のご生涯（その七）
- 3面 綺麗になった安楽寺会館
- 4面 仏教豆知識（お盆について）

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
 電話 〇五二（八四一）二六〇六

多くの皆様にご参詣いただいた春の永代経法要



五月十三日、春の永代経法要が勤まりました。大勢のご参詣有難うございました。二十二組の住職方による読経の後、ご法話を西尾市・本澄寺の柳野明仁先生にお話しをしていただきました。以下、ご法話の要旨を述べさせていただきます。

「六道輪廻を越える」お釈迦さまの教え

柳野先生は、二畳分もある「熊野観心十界曼荼羅」の絵図を掛けてお話をされました。「この絵図は人生の上り坂・下り坂そしてまさかの姿が描かれており、生きざまを通して時の流れの速さを感じさせてくれます。人間界における六道輪廻の考え方が、すでに古代インドには、ありました。地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人間・天上の六道を言います。お釈迦さまは、この六道思想を否定はされませんでした。」

柳野先生は曼荼羅に描かれている人間の行ってきた罪業を気付かせる絵図一つずつを指し示しながらお話しされました。

柳野先生は、「祇園精舎の鐘の音、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色、盛者必衰のことがわりをあらわす……」平家物語の有名なくだりを琵琶で演奏しながら、静かな語り口で伝えられます。「お釈迦さまは六道輪廻の世界を超える世界を明らかにされました。人間界に何をしに生まれてきたかという、仏さまの教えに出会うためです。親を亡くして始めて親に会わせて頂き、わが姿が畜生の姿であったと目が覚めていく世界が、仏法にであうことです。」

法蔵菩薩は、生きとし生きるものを等しく救う願（本願）を建てられました。親鸞聖人は、罪業深重の人間が、人間らしい生活が送れないどころか、あることをあたりまえとして愚痴や文句の絶え間ないこの私を自当てるに、本願をお立てくださいました。その法蔵菩薩のご苦勞を、時空を越えて私に届けて下さった、その歓びのほとばしりが、『正信偈』『ご和讃』として今日に伝えられています。

柳野先生は、永代経を縁として南無阿彌陀仏の一步を踏み出していく大切さを力強く語って下さいました。

親鸞聖人の「生涯

その七 常陸の国でのご教化

親鸞聖人は、健保二年（一一二四年）四十二歳の時、家族とともに上野の国（群馬県）から下総の国（栃木県）を経て、常陸の国（茨城県）へと入られました。以降、二十年にわたり、稲田の地の草庵を中心にお念仏をお伝えする日々を送られました。

関東の地は、法然上人の門弟たちによる布教によって、念仏の教えが及んでいましたが、生活環境が厳しかったこともあり、「吉凶禍福」を祈る信仰がはびこる土地柄でした。聖人は危険も顧みず、土地の人々の生活の場に足を運び、膝を交えて信心を語り合う日々でした。

自ら確信された阿弥陀如来の救済をお説きになる聖人のお姿は、かたくなだった土地の人々に、次第に本願念仏の教えをしみわたらせていきました。

『お念仏をただ信じ、人に伝えているだけ』

聖人から三代あとの存覚上人のお書きになられた『御伝鈔』の中には、聖人が関東の地でのご教化されているご様子があらわされています。その中の一節です。

「聖人が常陸の国に居所されている頃、近くの板敷山に弁円（べんねん）という山伏がいました。弁円は、「念仏をもつて人々をかどわかせる不敵なふるまいをする親鸞」と言つて祈り殺そうとしたり、待ち伏せして殺そうとしましたが、果たせませんでした。

そして弁円は、聖人の居所に乗り込んできました。そこで聖人は弁円に笑顔でお会いになり『わたしは、お念仏をただ信じ、人に伝



稲田の草庵 茨城県笠間市稲田(西念寺)

親鸞聖人二十四輩の一つ、多くの方が参拝されます

えているだけなのです。』とのお言葉に、『害心たちまちに消滅して、後悔の涙禁じがたし』と弁円は、聖人の教えに心から信奉し、仏教に帰依し、明法房と名のりました。

聖人の土地の人々へのご教化は、稲田の草庵のある常陸、下総、下野（栃木県）の三国を中心に、広く関東から東北にまで及び、各地に念仏者の僧伽（さんが）がうまれていったのです。

綺麗になった安楽寺会館

「ご協力ありがとうございました」

今年で竣工十五を迎えます安楽寺会館は、ご門徒の皆様をはじめ地域の皆様のご葬儀やご法要などに利用頂いております。

この度、会館外壁補修及び防水工事を銀行融資と佛佳会からの補助金をいただき四月末には大変綺麗になりました。

また、昭和五十五年（一九八〇年）の安楽寺御遠忌法要の時のままだったお勝手場やトイレの改修を合わせて実施したい旨、ご門徒の皆様にお願ひ致しましたところ、六月末日までに二百万円を超えるご協力を頂きました。



会館に立派な額が入りました



今年六月に安楽寺会館正面玄関に立派な額が入りました。あるご門徒様が、ご結婚六十年を無事に迎えられた慶びの記念に寄贈頂きました額です。書道家の江川香竹先生（三重県在住）のお書きになりました。書でひとときわ目を引きます。水辺に咲く蓮の花の絵に「智慧の光に照らされている このわたし」との書で、正信偈のお言葉を通してお念仏の教えに出会いたい願ひが込められています。ぜひ一度ご覧頂ければとおもいます。

誠に有難く深くお礼申し上げます。

今年七月以降に本堂西と階段下のトイレ改修を行う予定ですので、九月の秋の永代経法要にご参詣いただいたおりに、ご覧いただけるかと思ひます。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

安楽寺法要日程

- 七月十三日（土） 定例法話 午前・午後
昭河区 八神正信師
- 八月 四日（日） 孟蘭盆会法要
午前十時・午後一時
（初盆法要は八月三日） 住職
- 九月十三日（金） 秋季永代経法要
午前十時・午後一時半
稲沢市 榎山正樹師
- 十月十三日（日） 定例法話 午前十時
坊守
- 十一月十二日（火） 午後一時半・四時
十三日（水） 午前十時・午後一時半
報恩講法要
昭河区 荒山 修師
- 十二月十三日（金） 定例法話 午前・午後
昭河区 八神正信師

仏教豆知識

第十五回



お盆(盂蘭盆)について

お盆は盂蘭盆(ウツランバナ)の略で、盂蘭盆経にあり、その意味は倒懸(さかさまに吊るされた地獄の苦しみ)をあらわしています。日本には民俗信仰に基づき、お盆には、ご先祖の「靈魂」が帰ってくると思えられてきました。迎え火や送り火そして精霊棚に位牌を安置し、季節の野菜をお供えするものです。

最初に述べました盂蘭盆経には、次のお話があります。

お釈迦さまのお弟子・目連尊者は、神通力第一と言われていました。彼は、亡くなった母親のことが忘れられず、今どこに行っておられるか、と訪ねてみたところ、極楽浄土にも天上界にも見えず、餓鬼道で苦しんでおられました。母は自分を育てるための母性愛によって餓鬼道に落ちたのだと気づきました。

目連は母の苦しみを救いたいとお釈迦さまに尋ねられました。お釈迦さまは七月十五日にすべての仏弟子に百味の飲食での供養する

ことを勧められ、ふるまいを受けた弟子たちから喜びの声が上がりました。その功德によって「餓鬼の苦を脱することを得」て天上界へ上つていきました。このように餓鬼道で苦しまねばならぬほど、子育ては厳しいものかと思ひ、お育てをいただいた亡き肉親のご恩を偲ばずにはおれないのが、お盆のころだと思います。

親鸞聖人は、著書の中の『諸仏護念の益』の項で『束縛や苦悩から解放された無数のいのち(先祖)・仏さまが、あなたを護っておられます。あなたはあなたとして有難いと言える人生そのような教えに出会ってください。』と、述べられています。

お盆を縁として、お念仏の深い味わいに気づかせて頂きたいものです。



政治はどんな社会・どんな将来を目指

すのかの考えを表明することです。二年

前三月の東日本大震災と福島原発の爆発

それによる放射能漏れに苦しむ被災者の

皆様に対して、政治による血の通った施

策は遅々としているとしか思えません。

そんな中、経済の「成長戦略」の一環と

して原発の活用を掲げ、再稼働に最大限

取り組むことを公約に掲げる政治。また、

日本の高い技術力を名目に、「危険を経験

したから安全」との理屈で原発を海外に

売り込む政治。こうした政治は受け入れ

がたいと思う一人ですが、国のかじ取り

を託す国政選挙が近づいてきました。